

EDELWEISS

花の力

春はやっぱりウキウキしますね。私達にとっては2011年の東日本大震災があり、2020年には新型コロナウイルスが全世界を震撼させた季節でもあります。それでもそれらの負の記憶を乗り越えられるような、パワーに溢れている時期です。そのパワーって、これから花を咲かせようとエネルギーを貯めてきた花々の力かも知れません。

JCZのお手伝いを申し出てくれた会員さんが、お散歩時に見かけた野生のクロッカスの写真を送って来てくれました。「生きる力、半端じゃない！」とコメントをつけて・・・。芝生に囲まれて、こんなに美しい花を咲かせる植物の力が、写真からも分かりますでしょうか。

自然界が色彩に溢れ、湖がより美しく見えるのは、春の太陽のお陰でしょう。花だけでなく、太陽にも、若葉が芽吹く木々にも、ポジティブなエネルギーが満ちている気がしますね。そんな太陽の力はアルプスを越えると、もっと実感が湧くかも。そんなわけで右の写真のリトム湖畔へのお誘いです。

チューリッヒで正式に春が始まるのは、ゼクセロイテンからです。まずはイエス様の復活を祝う4月9・10日、そして翌週の16・17日がゼクセロイテンです。日曜日の子供パレードでは、当会と商工会の共催で、子供達が日本をアピールしてくれます。月曜日にはZunftパレードがゼクセロイテン広場にたどり着いたら、冬の象徴の雪だるまに着火し、弾けたら春到来です。その次の週からチューリッヒ州は春休みに入り、お祭り気分のまま駆け抜ける4月。あちこちで開花する花々から、エネルギーを沢山もらって、皆さん元気に春を満喫しましょう。(SN)



Die Lebenskraft des Frührings



JCZお泊りイベント

ティチーノ州・リトム湖
ハイキングor 釣りのお誘い

チューリッヒ中央駅からゴッタルド・トンネルを通り抜けてイタリア語圏へ所要約3時間で到着するリトム湖(左写真)。その湖畔でのお泊まりイベントを開催します。部屋の確保の都合上、4月28日までにお申込み下さい。詳しくは、P7をご参照下さい。



©Marianne

● 巻頭文

『欧米に翻弄される日本と取り戻すべき日本の精神』 青砥 玄(会長)

● 私のイチオシ、シェアします!

『Hotel & Spa Bad Horn』 中 東生

● 古典籍スクール Vol.11

『江戸の歌舞伎熱』 ブランド 啓子

● チューリッヒの建築散歩 Vol.28

『La Chaux-de-Fonds Le Corbusierの初期の作品を訪ねて』 ロイバーゆか

「欧米に翻弄される日本と取り戻すべき日本の精神」

巻頭文：青砥 玄（会長）

元スイス大使の本田悦朗氏が、ネット番組に登場され、「いまだにデフレが続く現下の日本で、増税は決して実行してはならない」と極めて論理的に説明され、大いに賛同をいたしました。その中で本田氏は、物事を考えるには三つの段階があり、それを三つのPと称しますと説明されました。まずはPhilosophyの段階、そしてその上で、Paradigmレベルがあり、その基盤の上にPolicyが出てくると説明され、極めて示唆に富んだ内容でした。実は同じ内容を、米ワシントンに30年以上在住する国際政治アナリストの伊藤眞氏がネット番組「真剣な雑談」で語られていました。

伊藤氏は、ワシントンから日本の外交や政治政策、国内政治を見てみると、表面的な議論の繰り返しで、これでは整合性のある一貫した国政は成り立たないと大いに危惧されています。そして、ものを考えるには三つの段階があり、それに沿って考えないと物事の整合性は取れず、安定した思考が成り立たない。その三つとは、一番上に哲学や宗教レベルの価値判断。その下にあるのが、二つ目のパラダイムレベルで政治学や政治思想史または経済学など。例を挙げるとケインズとかマルクスなどの“学派”にあたるもの。三つ目が具体的な政策であるポリシーレベルの思考とのこと。

経済と政治の世界で国際的に活躍されるお二人が、いみじくも同じ公式を使って現代日本の問題点を語っておられることに興味を抱きました。成程、日本に欠けているものが、哲学であり理念や宗教なのだという点は極めて的を射た指摘です。

欧州の歴史について

伊藤氏は「真剣な雑談」「プラトン哲学と国家の独立」の中で、過去2500年間に人類の価値判断がどのように変わってきたかを俯瞰します。氏は基本的に、ヨーロッパ文明がとても好きだと語られながらも「過去200年間のヨーロッパ文明ははっきり言ってダメになってしまった」と嘆かれます。ヨーロッパ文明の基盤は二つあり、一つが紀元前4~5世紀に発生したソクラテスとプラトンとアリストテレスのギリシャ哲学・ギリシャ科学精神です。一般的には、ソクラテスとプラトンが人類の哲学の基盤を作り、アリストテレスが人類の自然科学と社会科学の基礎を作ったと理解されています。その約400年後、イエスキリストが誕生しキリスト教文明が出来上がってゆきます。ヨーロッパ文明の源流はギリシャ哲学であり、ローマに広がったキリスト教文明から来ている訳です。それが大きく変わったのが18世紀の後半。その頃にギリシャ哲学やキリスト教文明を批判する、啓蒙主義思想が誕生します。それから約250年間はこの啓蒙思想を基盤に欧米文明は発展してきました。

ギリシャ哲学もキリスト教文明も、人間よりもっと大切な価値があると主張し、それを彼らはTranscendental Value、超越的な価値としていました。それは究極の真善美、もしくは神聖な価値（Devein Value, Divinity）一般的には神と呼ばれていました。それに従っ

て生きてゆくことが人間の務めであると当時では思われていたのです。

18世紀の啓蒙思想とは、Enlightenmentと呼ばれ、人類に光を与えるとはいわれていますが、よくも悪くも人間中心主義、Human Centricなのです。もっといって人間こそが世界で最も偉く人間が世界の中心であるという考え方。人間の欲望、人間の権利が最も大切だという考えです。それを尊重する生き方が良い生き方であるとすると、価値判断の中心が人間になるのだと伊藤氏は指摘します。

人間中心主義は一見素晴らしく見えますが、プラトン、ソクラテスやアリストテレスそしてイエスキリストは、人間は時として愚かなことをするから自省しなくては行けない。自制心が必要だと。自分の欲望と権利を主張し続けると、いざこざが増えるだけではなくて社会全体も正しく運営できなくなり、社会の価値規範自体も崩れてゆくと主張していました。それを徹底的に取り除こうとしたのが、デイドロ、ダランベール、ルソーなどです。自然に帰れと、原始状態の人間が素晴らしかったから、社会の伝統とか因習とかをすっ飛ばして人間の欲望と夢を実現させればよいのだと主張しました。そのあたりから人間は実利とか実益を重視するようになり、自分の都合を優先し始めたのです。その結果19世紀の植民地の獲得競争となり、帝国主義が広がってゆき、人種差別主義も横行していきました。自己中心的な民族主義と国家主義です。Might is Rightのような政治となり、第一次、第二次世界大戦へとつながってゆきました。最初、日本人はそれに順応して乗っかり、勝者になった気持ちになったのですが、1945年に叩きのめされて、それからは二度と独立出来なくなったわけでした。

欧米に翻弄される日本

特に過去200年ほどの間に欧米人の価値判断基準が衰退し、日本はそれにもあそばされてきたのだと伊藤氏はいいます。19世紀の半ばまで日本人は外国人と議論する立場に立たされていなかったが、開国をした途端に、価値判断能力が乱れ始めた欧米人と付き合いなくてはならなくなった。これは当時の日本の大いなる悲劇だと伊藤氏は嘆きます。18世紀までの欧米人は簡単に自分の意見を変えたりするような人たちではなかったのだそうです。しかし過去200年くらいは欧米人が落ち着きを失い、その場その場で自分たちの都合のいいことを言いだし、自分たちの価値判断基準を非白人諸国に押し付けること（植民地政策）を繰り返してきました。開国と共に日本はそういった西洋諸国に押しまくられ、一生懸命対応して、追いつこうとし続けてきました、現在もその状態が続いています。

伊藤氏は言います。「人間が生きてゆくためには、二つのMが必要でそれがMeaningとMissionです」。人間は、なぜ自分は生きているのか？生きる意味は何なのか？を考えます。Meaning of Life, Mission of Lifeを示してくれるのは哲学と宗教です。いくら政治学、心理学、社会科学などの本を読んでも、生きる

意味はなにかの回答は出てきません。宗教とか、哲学がはっきりしていない国民は、自分たちが大切にしている価値規範は何かという議論があいまいなまま目の政策議論をすることになるので、いつも腰がぐらぐらして自分たちの大切にしている価値判断の基準にしっかりと足を踏まえて長期的な政策を実行するという能力を持ってないのです。それがしっかりとやって政治学とか国際政治学とか、経済学といった具体的な学問レベル、即ちパラダイムレベルの話が進んでゆくわけです。その後初めて具体的な政策議論が出てくるべきなのです。これはまさに正論だと思います。

日本は吉田茂以来、日米機軸主義ということで、対米従属を継続してきました。アメリカがグローバルイズムをやりますと我々もそれに追従してきました。アメリカが「企業はすべて株主の利益の為に存在する」というと、従業員の給与を極力下げて株主の利益を何倍にもしてゆく。そんな株主資本主義をアメリカが押し付けてくると、日本の過去30年の政権はそれを全て実行してきました。その結果、日本の勤労者はどんどん貧しくなり、日本の株式市場の7割は外国勢、特にアメリカに支配されています。米国のヘッジファンドとか金融機関は自分たちの金儲けだけを考えているので、日本の勤労者のコストを減らして株主に利益を廻すように圧力をかけ続けます。驚いたことに日本政府はそれに従った政策を実行してきたわけでした。結果的に人口の半分は貧困化し、それを理由に20代30代の2~3割が結婚を諦めて、家庭を持つことが困難な状況になってしまっています。これも日米帰属主義の結果であり、それにより日本における立場はどんどん劣化していったわけです。

これらの根本的な原因は、日本人に哲学、価値規範、価値判断力が欠如しているからです。その結果、経済学、国際政治学、核戦略理論、軍事、国際政治史で、どのようなパラダイムを採用すべきかという判断力が欠け、アメリカの言いなりになり、どんどん貧しくなっているという伊藤氏の指摘は問題の本質を突いています。

大正末期から昭和の初めに、駐日フランス大使（1921~1927）として来日したポール・クロードル（1868~1955）は、日本の敗戦の色が濃くなってきた1943年にこういう言葉を残しています。「世界でどうしても滅んでほしくない民族がある。それは日本民族である。その理由は、日本は太古の昔から文明を積み重ねてきたから、明治維新後、急速に欧米文化を輸入しても発展することが出来た。日本人は貧しい、しかし高貴である。」と結んでいます。クロードル氏を感動させた100年前の日本人の精神性や、理念を取り戻すことこそ、日本の生きるべき道であり、取り戻すべき伝統精神だと思うのです。

ご意見・ご質問は青砥まで
gen.aoto@toyota.ch

3年ぶりようやく再開できたJCZ新年会でも、このホテルからの金券景品が複数出ていたので、それに当たった方や、その他、自分へのご褒美を探している方にもお勧めとしてシェアします。

この景品が当たった時には「ボーデン湖の辺り」という情報しかなく、Hornという楽器のような地名で調べてみると、電車でヴィンタートゥールから乗り換え1回で2時間、Horn駅からも歩いて5分強というではないですか！折角リラックスに行くのだから・・・と運転もやめて、電車にしました。駅からの道のりどかで、ゆっくり歩いているうちに、車通りに出たらすぐにホテルに到着。



到着したらすぐ、湖沿いのお庭で軽い昼食を摂りました。船着場には、プレーゲンツまで連れて行ってくれるという船Emilyを発見！プレーゲンツ音楽祭の時期、ハイヒールにロングスカートでおめかししても、ホテルから船に乗り込むだけで湖上オペラに行けちゃうなんて、楽チン！



Hotel & Spa Bad Horn

中 東生さん



食後の腹ごなしに周りを散歩してみました。湖以外何もなく、ホテルから見た湖の方がずっと素敵なので、すぐに豪華気分のホテルに帰りたくなってしまいました。部屋に入るとすぐに、窓から見える湖の絶景が出迎えてくれるので、気分が高揚します！戴いた金券に上乘せして、湖側の部屋を予約して良かった～。バルコニーに座ってボーデン湖の眺めを満喫してから、スパへ行く準備を始めます。スパ用の袋に入っているバスローブとスリッパを身につけて、いざスパへ！

まずは湖を見ながら屋内プールでひとしきり泳ぎます。ジャグジー部分もあるので、見た目よりも距離が短く、2、3度クローリングしたらすぐ辿り着いちゃう狭さは物足りない！でも、居心地は良いので、何度も何度も飽きずに、湖を見ながら往復しました。テラスに出ると、温水のジャグジーもあり、外気は冷たくても、温まりながらゆっくり湖が見下ろせます。目の前にある棧橋からは長い階段が湖面まで降りているので、十分温まったら、そのまま湖に泳ぎ出せるのがセレブの別荘みたい！湖水は水草などが多く、それほど



キレイではないけれど、湖面からホテルの建物を見上げると、バカンス気分。

階下には3種のサウナがあり、冷気ミストやシャワー、足湯コーナーで火照りを冷ましたら、落ち着ける休憩室でゆったり。1番暑いサウナは船室に仕立てられているようで、丸い窓からは水位が高いと魚が泳いでいるのが見えると、常連さんが教えてくれました。更衣室も落ち着ける作りなので、日帰りでも十分来れそう。でも、宿泊客はもっと贅沢な時間が過ごせます。

思う存分サウナ漬けになった後は、ホテルのガーデンレストランでディナーにするのが一番便利です。ゆっくり食べてあとは寝るだけ！隣のバーも部屋のバルコニーから見下ろせて、誘惑していたけれど、大人



しく寝ることにしました・・・。

お陰で、翌朝朝日を浴びながら、湖畔のテラスで爽やかに朝食を楽しめました。豪華なビュッフェの後ゆっくりチェックアウトしても、荷物をフロントに預けて、昨日のスパ袋でもう一度サウナを楽しめます。ホテルの部屋がない今日は、居心地のいい更衣室が心底有り難かったです。そして電車で揺られ、夜は元気に仕事へ向かえたのでした。

今まで何度かウェルネスホテルに行った経験はありますが、これだけくつろげた事はありませんでした。自分だけの「お勤めの隠れ家」のような感じです。個人的には、次はプレーゲンツ音楽祭の時に訪れてみたいと思いますが、皆様には、まず平日の空いている時期に体験することをお勧めします。

大使館関係のお知らせ



1. 旅券オンライン申請開始

当館ホームページ及び領事メールでもご案内しておりますとおり、3月27日より旅券オンライン申請を開始いたします。詳細は当館ホームページをご参照願います。

2. 次回領事出張サービス

本年4月の領事出張サービスは以下のとおりです。
 日時：2023年4月29日(土)10:00-12:00,13:00-15:00
 場所：チューリッヒ日本人学校日本式2階音楽室
 住所：Florastrasse 18, 8610 Uster
 申込締切：2023年4月13日(木)必着
 申し込み期限をお間違えないようお願いいたします。
 詳しくはこちらをご覧ください。
https://www.ch.emb-japan.go.jp/itpr_ja/ryojisvc.html

GlobAS Relocations Europe GmbH

スイスからのお引越は、グローバス・リロケーションにお任せを！海外・国内及び欧州内引越しサービス、譲渡/転売品の市内輸送、処分品廃棄等の関連付帯サービスも承っております。ご成約特典として空港宅配無料クーポン、JAL・ANAマイル積算サービスのご用意がございます。詳しくはお問い合わせ下さい！

Email: zurich@globas-relo.com

HP: <http://www.globas-relo.com>

Tel: +49(0)89-189-386-21 (日本語直通) 担当: 三嶋



古典籍スクール

ブランド 啓子 (古典籍研究家)

江戸の歌舞伎熱

其の十一



1. 人気の演目

前回は、江戸の歌舞伎は筋書きの中で時代背景・人物模様をなまいげにし、理解しやすい娯楽であったこと。観客間の身分や舞台と観客との枠も取り払ったような、不思議な空間を形成していたことを探りました。

歌舞伎の演目の中で特に人気の高いものは仇討ちです。鎌倉時代成立の「御成敗式目」では敵討ちは禁止されていましたが、江戸になるとそれが許されるようになりました。「父母や兄など目上の親族が殺害された場合（妻子や弟・妹は基本的に認められない）」「士分の者は主君の免状が必要」「敵討ちされる側には正当防衛の返り討ちをすることが認められる」などの細かい取り決めがあり、実際には敵討ちが成就するまでに何十年もかかることもあったのです。芝居では仇を討とうとして失敗し返り討ちにあったり、なかなか仇を見つけれず艱難辛苦を重ね、その苦しみが観客をハラハラさせました。それが人気を博したのです。

2. 勧進帳

「勧進帳」は特に人気を博した演目です。「源平の争乱で華々しく活躍した後、悲劇的な死を迎える」という悲劇の英雄源義経に同情する気持ち。転じて弱い立場や敗者に共感を持ち鼻唄することは、九郎判官義経（くろうほうがんよしつね）の名前から判官鼻唄（ほうがんびいき）と呼ばれました。

「勧進帳」は市川家のお家芸とされる歌舞伎十八番の一つで、本来武士のみが閲覧できる能の「安宅」をもとにして作られました。七代目團十郎はこの能をこっそり能舞台の縁の下に潜んで盗み見て学んだともいわれています。当時の歌舞伎役者は身分も低く「能」の鑑賞などできるはずもありませんでした。

この演目は、義経が兄頼朝の追討の手を逃れ、奥州へと落ち延びる際の加賀国で、安宅の関（石川県小松市）での、義経、弁慶、富樫左衛門の物語です。

義経一行は武蔵坊弁慶を先頭に山伏に姿をやつしています。辿

り着いた関所で、弁慶は焼失した東大寺再建のための勧進（寄付）を行っているという説明をします。しかし、関守の富樫左衛門は既に義経一行が山伏姿であるという情報を得ていて、通過を許可しません。そして弁慶に勧進帳（寄付の記録）を読むよう命じます。弁慶はたまたま持っていた巻物を勧進帳であるかのように装い、朗々と読み上げます（勧進帳読上げ）。なおも疑う富樫は山伏の心得や秘密の呪文について色々と尋ねますが、弁慶は淀みなく答え（山伏問答）富樫は通行を許すのです。しかし富樫の部下の一人が、強力（ごうりき、義経）が義経に似ていると疑いをかけます。弁慶は主君の義経を「お前のせいで疑われた」と、金剛杖で激しく打ち据え、その疑いを晴らします。この後弁慶は義経に泣いて謝ります。初期の演出では、富樫は見事に欺かれた凡庸な男として描かれましたが、後には弁慶の嘘を見破りながらその忠義の心情を思い、騙されたふりをする好漢として定着しました。



図 勧進帳 弁慶 義経 富樫 三枚揃 豊国画 嘉永2年（1849）

3. 関所を通過するには

伊予松山藩士、内藤鳴雪（1847-1926）は、その自叙伝で幼少時の関所の体験を詳しくのべています。

なんでも手形を持たぬ町人百姓が関所に来ると、役人は「これからどちらへ行ってどう曲ると抜道があるが、それを通る事は相成らぬぞ」といって、暗に抜道を教えたということです。また、手形のない者を呼び止め、「ないならば元へかえせ」と厳しく叱ります。するとその者は、「はい」と言って反対を向いて関門を出て、サッサと通ってしまう。こういう事も黙許されていたそうです。旧幕時代は諸事むつかしい法度があったのですが、実はこのように寛大な所もあったのです。出典：鳴雪自叙伝（青空文庫）

BULLETIN BOARD

【ピアノレッスン】

お子さまから大人の方まで幅広くレッスンいたします。ピアノが好きな方、ぜひ一緒に音楽を楽しみませんか？グランドピアノにてレッスンいたします♪お気軽にメッセージください。

Piano : 住村奈緒

Profile : パリ国立高等音楽院卒業、チューリッヒ芸術大学修士リスト課程在籍 Mail : nao23smmr@gmail.com 住村

●深田勇馬 津軽三味線コンサート

2023年6月4日（日）11時~コレクテ

ZunftHaus zur Waag, Münsterhof 8, 8001 Zürich

要予約 yuma.shamisen@gmail.com

●三味線初心者ワークショップ

日程: 6月5-6日、10~12時

場所: チューリッヒ市内 講師: 深田勇馬

問い合わせ yuma.shamisen@gmail.com 担当 酒井

ベートーベンのチェロとピアノの全作品演奏会 第1弾

チェロ: ジュリアン・キルヒエンマン ピアノ: 大橋雅子

5月14日(火) 17時 チェロソナタ 2、3番、ユダ・マカベウスの

主題による変奏曲 ト長調

入場無料 コレクテ アペロ有

Schneckenmannstrasse 8. 8044 Zürich bei Herrn Richard Inrigger

申し込み: dklmce0511@gmail.com 大橋

EDELWEISS INFO

チューリッヒ日本人学校補習校

幼・小・中・高 教員・代替教員

随時募集

履歴書をお送りください

- ・スイスで国語学習に励んでいる子どもたちに、経験を生かして貢献したいと思われる方
- ・コミュニケーションを大切に、協働できる方
- ・毎週土曜日2~4時間の国語の授業
- ・教員免許のある方（どの教科でも構いません）、塾で教えた経験のある方
- ・労働許可証がある方に限ります

問合せ先: Japanische Schule (Hoshuko)

TEL : 044-941-1554

電話での問合せ: 土曜日

E-mail : hoshukoz@hotmail.com

HP : www.jszurich.ch

東日本大震災12年目に寄せて —レポート—

今年も3月11日が巡って来ました。

あれから12年・・・。当時の児童は成人し、「悲しい過去」としてその記憶は遠ざかっていきますが、何かを失った人にとってその喪失感は現在形でしょう。そして福島第一原発事故は確かに未来にも続き、今も戦っている人達がいる事を忘れない活動が、チューリッヒでも見られました。

3月10日はチューリッヒ大学で、福島避難民の声を代表して国連に伝え続けている園田さんの講演会が行われました。特に大学生達による、国連関係の質問が続いたといえます。その後のアペロには野菜のスティックなどが豊富に揃い、ピーガンの園田さんへの心遣いが感じられたひと時でした。



写真提供：野崎篤 (ドイツ・スイスの会)

園田さんは避難区域外の福島県内に住んでいた当時、福島のテレビ局が津波後から24時間流していた福島第一原子力発電所の映像で、12日の1号機爆発をリアルタイムで観たと言います。翌13日には、たまたまテレビ番組の屋外インタビューを観ていた時に3号機が爆

発し、白いものがインタビューワラの背後に降って来たのを見て、避難を決心したそうです。

現在イギリスに移住している園田さんは、日本政府が避難者に向けての住宅支援を打ち切った2017年に国連でスピーチをしてから、福島避難民の声を伝え続け、自身の仕事も投げ出している状態だそうです。ご主人も事故直後、放射性物質が含まれる泥などを除去する手伝いをしたために重度に被ばくし、現在も被ばく症状に苦しんでいるということです。そのような方々が沢山存在すると初めて知りました。

そんなフクシマのためのチャリティイベントSushi Nachtは、コ

ロナ禍で中止を余儀なくされた2020年を除き、10回目の節目を迎えた今年、最後の開催となりました。礼拝のテーマは「自分に力を与えてくれる何か」と繋がるということ。神だったり、祖国だったり、被災者への思いだったりするのでしょうか・・・。この企画を主催している当教会のオルガニスト上野睦さんも、そのようにして力を得、10年間続けて来られたのでしょうか。オーボエの井上眸さん、バイオリンの坪井悠佳さん、ホルンのイヨール久美子さん、チェロの吉田啓晃さんは礼拝から演奏しました。

チャリティコンサートのオープニングは福田弘子さん指揮、ヴァイランド千佳さん伴奏のチューリッヒ日本女声合唱団。日本語で聴く歌はやはり心を直接揺さぶります。最後の「さくらさくら」を一緒に歌ったSinggruppe Kalliopeにバトンタッチすると、今度は黒人霊歌とゴスペルで、上野さんの伴奏。続いてスタジオ・ジブリの3本のアニメより5曲を演奏されました。階上で演奏するオルガニスト（正木叔子さん）とマリimba奏者の姿がイラストと共にスクリーンに映し出される趣向は嬉しい試行でした。その後また舞台上には、Aidoトリオの2人とリコーダーの譜久島彰さんが登場し、一気にパロックの世界へ。その後、再び階上のチューリッヒCantamus合唱団と前述のマリimba、オーボエ、バイオリン、ホルン、チェロ奏者が受難曲と即興曲を演奏し、最後は舞台上でチューリッヒ太鼓が良い「気」を充満させて終演となりました。3時間以上の長丁場でも、教会を埋める人々はほとんど退席せず、フクシマのために集って音楽体験することを心から楽しんでいるようでした。そしてその大勢の胃袋を満たすだけの素晴らしいご馳走が運ばれ続け、舌鼓を打ちながら、演奏者達と交流して、共に日本を想い夜が更けていく・・・。そんな素晴らしいイベントでした。

Sushi Nachtは来年以降、別の形で続いていくという噂もあります。

園田さんは12日もジュネーブで講演、13日は国連人権理事会で行われる、「適切な住居を得る権利に関するディベート」に参加後、6月にも国連を訪れるそうです。私達も継続して意識し続け、震災や原発事故の教訓を忘れないようにしたいものです。



写真提供：Uj. Hürlemann

JCZ日本人学校向け イベント

Hitachienergy工場見学 レポート

工場見学に先駆けて、2月22日(水)14:45-15:35にUsterのチューリッヒ日本人学校で、「電気の教室」と称した出前授業を実施しました。

「電気の速さはどのくらい?」とは、最初の質問。・・・答えられませんでした。家へ帰って調べたら「光の速さと同様同じ。一秒間に地球を7周する」という事です。高校で習ったみたいですね。

そして3月1日(水)9:30-12:20、日本人学校の子供たちに、我が社を見学いただきました。25名の参加者は見学後、社員食堂でランチを摂り、雑談で締め括りました。

「工場見学の印象は、いかがでしたか?」の質問に生徒の皆さんから、「事前出前授業からの印象と違って、現物を見てものすごく印象が変わりました」との一声。我が社の社訓をすでに生徒のみなさんは、身をもって経験されていると感心しました。

(文：日立エナジー
岡田明)

写真：社外の方がめったに入れない高電圧、電流研究所の中での記念写真です。



スイス・日本協会フィルムマチネ

上映作品

「そして父になる」(Like Father, Like Son)2013年
是枝裕和監督

120分、独語・仏語字幕付き

日時：4月30日(日)11時(10時45分開場)

会場：Filmpodium der Stadt Zürich, Nüscherstr. 11

入場無料(コレクテ)



Global Success Coaching

グローバルサクセスコーチングは、コーチング、各種マネジメントメソッド、科学的な人材アセスメントツールを用いて、欧州・日本のお客様の人材開発、人材マネジメント、異文化マネジメントをグローバルに支援致します。

目標の達成、問題の解決をされたい方は、下記までお問い合わせ下さい。

担当：津波 平和(つは へいわ)

info@globalsuccesscoaching.eu

http://www.globalsuccesscoaching.asia/



スイスに住んでいて面白いのは、一つの国の中に異なる言語圏が共存するので、列車で少し行けば、まるで外国に来たような気分になれること。ほんの少し山や谷を越え、森を抜けると、地理的にも言語的にも違う地方に入るので、当然食べ物や町の雰囲気、そして建築も一風変わって楽しい。今回紹介したいLa Chaux-de-Fonds①（ラ・ショード・フォン）という街は、ビール湖とヌシャテル湖の北西に位置し、Jura山脈（日本語ではジュラと英語読みで、独語ではユラと読む）の高地1千メートルにあり、19世紀から時計産業の街として有名である。

実は建築を勉強する人には、この街は避けては通れない門のような場所でもある。それは、この街が近代建築の巨匠として有名なスイス人建築家ル・コルビュジェ②の生誕の地であるからだ。スイスに住んでいる人ならば、少し前まで黄色い10スイスフラン紙幣に丸メガネをかけた初老の男性の姿が印刷されていたので、ご存知の方もいるだろう。

もうずいぶん昔になるが、ETHの学生時代に訪れたラ・ショード・フォンという街は、どこか陰気な霧に包まれた場所で、コルビュジェの生家と近代的な時計とオルゴールの美術館を急いで見たという記憶しかない。新しく改装されて美術館になっているというMaison Blanche③（白い家）も一度見学したいし、筆者と同じく三度の飯より建築が好きというスペイン人の友人と、再びこの街を訪ねることにした。

チューリッヒを出発する朝早い列車に飛び乗ったのはいいものの、10両以上ある列車の先頭と最後尾の別々の車両から乗り込んだお開け二人は、通り抜けできない車両に出くわして、やっと会えたのはBiel駅での乗り換えの時（列車内での待ち合わせの時は要注意）。ビール湖を過ぎて、ユラの高地を列車で登り、霧深い森林の中を列車は走る。

ラ・ショード・フォンの駅に到着して、焼きたてブリオッシュと熱い紅茶の遅い朝食を食べ、まずは広々とした目抜き通り(Av. Leopold Robert)にある街の観光局を目指す。インフォメーションのお姉さんに英語で街の説明を受け、コルビュジェの住宅3つと他にも観ておきたい建物3つをどうやら効率よく廻れるかを相談する。そして彼女のおすすめ通り、まずはこの観光局に隣接する高い建物の屋上にエレベーターで上って、そこから街全体のパノラマを眺める。赤い瓦屋根の細長い直方体の建物が周りの山並みに平行に整然と配置されて、ジオラマのように目に広がる。この風景を見ると、この街がユネスコの歴史文化遺産に指定されていることに納得する。

ラ・ショード・フォンが時計産業の街として発展したのは、歴史的に二つの要因があったらしい。一つは16-17世紀ごろからフランスの宗教戦争のために、Huguenotte（フゲノット）と呼ばれるプロテスタント系のフランス人たちが、ジュネーブのレマン湖沿いのフランス語圏に多く移住してきたこと。彼らはインテリ層が多かったようで、時計などの精密機械や金属加工の技術をこの地方にもたらした。ユラ地方の冬は長く厳しく、かつてこの地方の農民たちは冬の農業の閑散期に家でコツコツと時計の部品作りをしていたのが時計産業の始まりとなった。焦らずに時間をかけて、機械工達は競って精密な部品を作り、より正確に時間を刻む時計を製作することに熟練していく。

二つ目は、この街に産業化が押し寄せる少し前の1794年に起きた大火災により、街の中心地の約4分の3が消失したこと。災害防止と街の近代化の両方を兼ねて、街の建築家であり起業家でもあったMoise Perret-Gentilが、目抜き通りに平行に道路を敷き、建物間に十分に距離をとった基盤目状の都市計画を街の中心に据えた。産業革命の波を受けて増加する人口に対応するために、1835年にエンジニアのCharles-Henri Junodが、この基盤目状の都市計画をさらに広げるような案を打ち出す。1857年に初めてこの街に鉄道が引かれ、1850年代にエンジニア

のCharles KnabによってJunodのプランをさらに進化させ、増加する住宅建築を都市計画として制御していくことに成功したとある。

さて、観光局から出てそれほど遠くない場所に、生鮮市場（マルシェ）を発見したので、少し寄り道。フランスとの国境はすぐそこなのか、食材の豊富なこと。マルシェには新鮮な野菜、果物、肉、魚、お菓子、パンなど、美味しそうなのがたくさん並んでいた。少し早いがお昼用のパンやお土産のお菓子を購入。市場を後に、今度は丘の方に向かって動物園を目指す。無料で開放されている動物園では、子供たちが大喜びする大きな角を持ったアルプスカモシカが眺められる。緩やかな曲線を描く美しいツノのついた動物の写真を撮って、細長い動物園を登り切り、丘の上にそびえ立つコルビュジェの白い家を目指す。



若かりしコルビュジェが両親のために設計したというこの家は、現在美術館として開放されている。綺麗にリノベーションされた外観も、彼特有の簡素なユグントシュティールを思わせるインテリアも素晴らしく保存、修復されている。大きなベイウィンドウからは街の建物がユラ

の森を背景に眺められる。南欧を思わせる青と白のチェック模様の床のタイルや、珍しい形のドアノブ、玄関の丸窓など住宅のディテールを丁寧に写真に収める。建物の地下では日本語字幕付きの建築作品集のビデオ放映まであった。この家のすぐ近くでは、コルビュジェが18歳の時に、別の建築家と共同設計して建てたというVilla Fallet④も外から見学できる。こちらは白い家とは対照的に、杉をモチーフにしたこの地方特有のユグントシュティールの装飾がファサードに施されている。この作品は時計職人の技術を身につけたコルビュジェの精緻な技術を彷彿とさせる。この後少し坂を下って、駅の方に戻りながら、最後にVilla Schwob⑤も外から見学。この邸宅はコルビュジェがこの地を離れる前に建てた最後の作品で、通称Villa Turque（トルコ風の家）と呼ばれ、この地方の建物とは様式が少し違う。コンクリート造に黄色いレンガのファサードは産業革命時代によく見られた様式ではあるが、リビングの大きく半円を描いた平面や建物全体のクリアな立体の配置の仕方、ファサードに幾つも穿たれた丸窓や大きなガラスの窓、ギリシャ風のコーニス、緑のひし形のガラスがいくつも連なるガラスモザイクといったディテールも非常に凝っている。

最後に街の中心に戻って、観光局からほど近い場所で街の歴史を3次元の映画で見せてくれるインフォメーションセンターも訪ねる。先ほどの観光局のお姉さんがいて、私たちを見つけると、後で英語で説明するから少し待っててねと言われた。フランス語圏の方は、心なしかドイツ語圏の方よりも親切に思えるのは気のせいかな。

本当は最後に美術館も見学したかったけれども、建築散歩ですっかりクタクタになった二人は少し早めの夕食を街の広場に面するレストランで食べて、その後ゆっくり駅まで戻り、列車でチューリッヒへの帰路についた。一度に無理せずに、またもう一度尋ねる理由を残しておくのも旅の大切な掟だ。心を残しておけば再び訪れる楽しみがある。

© 2013 Yuka Räuber



- 1 SBB La Chaux-de-Fonds, 2 Tourist Information, 3 Marche,
- 4 Zoo, 5 Maison Blanche, 6 Villa Fallet, 7 Villa Schwob, 8 Espace del'urbanisme horloger (都市計画映像館), 9 Mus·e International d'horlogerie (時計とオルゴールの博物館)

①myswitzerland.comでLa Chaux-de-Fondsを検索
 ②Le Corbusier (1887-1965)の本名はCharles Edouard Jeanneretといい、スイス生まれの世界的に有名な建築家。フランク・ロイド・ライト、ミース・ファン・デル・ローエとともに近代建築の三代巨匠の一人に数えられる。日本の上野公園の西洋美術館など、世界中に作品を残す。
 ③Villa Jeanneret-Perretは別名白い家と呼ばれる。maisonblanche.ch
 ④chaux-de-fonds.ch (ラ・ショード・フォン街の公式サイト)でVilla Falletを検索
 ⑤mvs.witzerland.comでTürkische Villa von Le Corbusierを検索



URLの詳細は、www.japanswiss.ch
「チューリッヒ近郊お出かけ情報」をご覧ください。

JCZお泊りイベント

告知



ティチーノ州リトム湖でのハイキング or 釣りのお誘い

6月30日(金)夜:集合 - 7月1日(土)夕方:解散
<7月2日(日) 延長 Option >

昨年の釣り解禁、個人的に6月から毎月通ったリトム湖で、ハイキングか釣りの選択で計画を立案いたします。
チューリッヒ中央駅から列車でパノラマの景色を眺めた後ゴッタルド・トンネルを通り抜けてイタリア語圏へ、所要約3時間(車も駐車可能)。まずは興味ある方々を募集しますので部屋の確保のためにも下記へご一報お願いします。(4月28日締切)

お申込み: akira.okada@hitachienergy.com (岡田明)
shunsuke.kato@hotmail.com (加藤俊介)



なお、ブルーベリーやキノコ狩りは別途9月に収穫状況を確認の上ご提案いたします。

アフタヌーンカフェのお知らせ

イースターと春休みに挟まれてゼクセロイテンのお祭りも目前です。町も春の賑わいを見せるころ、Jelmoliのカフェでお待ちしています。どなたでもどうぞ。

日時: 4月13日(木) 14:00-16:00
場所: チューリッヒJelmoli 3Fのレストラン
申込: JCZ HP イベント申込フォームより
またはメールにて kikaku@japanswiss.chまで



JCZ後援

第6回GINMAKU日本映画祭、開催決定!

コロナの影響により3年間中止を余儀なくされてきましたが、5月25日(木)からいよいよ再開されます!

上映作品は全て日本映画で、字幕は英語やドイツ語。数多くの作品の中から選び抜かれたドキュメンタリーやフィクションが、また母国語で楽しめます。

開催日程:
5月25日(木)・26日(金)・27日(土)・28日(日)・29日(月)

開催場所:

Kino Houdini Badenerstrasse 173 8003 Zürich Tel. 044 455 50 30 www.kinohoudini.ch	RIFFRAFF KINO Neugasse 57-63 8005 Zürich Tel. 044 444 22 00 www.riffraff.ch
--	--

Opening and Closing only

映画祭の代表を務める当会会員の松原美津紀さんは、4月より1ヶ月間クラウドファンディングで募金活動を行っています。個人運営の日本映画祭、資金集めが毎年最大の挑戦です。

以下の手順で、日本映画のパトロンになりませんか?

- ①www.wemakeit.com
- ②GINMAKUを検索
- ③GINMAKU Film Festival 2023を選択

www.ginmaku-festival.com
www.facebook.com/ginmakufestival/
ginmaku_japanese_film_festival
@ginmakufestival



【ルツェルン音楽祭メンデルスゾーン祭】
3月31日~4月2日



【劇場~城~美術館を90分で回る
お散歩ツアー・Badenfahrt100周年記念】
4月2日 https://www.museum.baden.ch/architektur

【チャンピオンズリーグ・解説付きライブビューイング】
4月12日 20:00 Sportsbar 1904
Seestrasse 25 8002 Zürich



【Sechseläutenゼクセロイテン】
4月16日 子供パレード
4月17日 Zunftパレード https://www.sechselaeuten.ch/

【ミュージカル「Dirty Dancing」オリジナルツアー】
4月4日~23日 Theater 11 Thurgauerstrasse 7, 8050 Zürich
https://www.musical.ch/de/dirtydancing

【Kunsthau Zürich・ジャコモメッティ〜ダリ】
4月14日~7月2日 https://www.kunsthau.ch/

【イースターお出かけ特集】

【聖金曜日に寄せるコンサート・Fraumünster Kirche】
4月7日 Stadthausquai 19, 8001 Zürich
榎本桂子(ソプラノ)他



【復活祭コンサート・Kirche Neumünster】
4月7日 ヨハネ受難曲 17:00~19:30
http://www.vocativ.ch/
Neumünsterstrasse 10 8008 Zürich

【イースター移動遊園地・Kloten】
4月8~16日(土)(月)(水) 13:30~22:00
Stadtplatz 8302 Kloten

【イースター・ブランチ】
4月9/10日 11:00-14:00 https://utokulm.ch/osterbrunch
Hotel UTO KULM AG Top of Zürich 8143 Uetliberg
4月9/10日 10:00-15:00 https://www.adlisberg.ch/ostern/
Restaurant Adlisberg Adlisbergstrasse 75 8044 Zürich

【チューリッヒ歌劇場】 opernhaus.ch

バレエ 「アンナ・カレーニナ」4月1/2/5/6日
「チェリスト」4月30日~

今月の注目

オペラ 《ラクメ》デリベ作曲(演奏会形式) 4月2/8/15日
《ロメオとジュリエット》グノー作曲 今月のお勧め!
4月10/13/16/22/25/28日
《ピバ・ラ・マンマ》ドゼッティ作曲
4月14/16/21/23日
《魔笛》モーツァルト作曲 4月29日

コンサート 4月23日
第5回交響曲コンサート 佐渡裕指揮 Have a Go!

【トーンハレ管弦楽団】 tonhalle-orchester.ch

4月6/7日 ヴェルディ・レクイム
4月10日 11:15 復活祭室内楽マチネ
山本未央(ヴァイオリン)他
4月16日 17:00
室内楽コンサート エマニュエル・パユ(フルート)他
4月20/21日 オールパッサ
デ・フリーリント(指揮)、ハヴィンガ(オルガン)
4月26/27日 ジンマン(指揮)、ブルックナー交響曲第5番



江川 康二さん (Zollikon在住)

●お仕事は？

私は日立製作所から出向して、日立エナジーという会社の財務部門で働いています。この日立エナジーは、2020年に日立がスイスのABB社からパワーグリッド部門（送配電の機器を製造販売）を買収して設立した会社です。従業員は90か国に4万人おり、私の勤務している会社はその本社です。日立エナジーでは、様々な国・地域の人が働いています。会議では基本英語ですが、いろいろな国の英語の発音で、耳が少し鍛えられたかなと感じています。私自身は日本とのやり取り等でこちらの会社の支援などをして、企業統治やグループ会社との連携強化を進めています。

●スイスに来るまでのお話

社会人になってから30年以上経理、財務の仕事をしてきました。入社は日立ですが、2003年から2013年まではルネサスという半導体の会社に在籍し、東日本大震災直後の2011年から2013年までドイツのデュッセルドルフで勤務していたこともあります。

直近では、2019年から2020年まで中国、北京にある日立中国という会社で働いていました。ちょうどパンデミックが始まったところに単身赴任し、ほぼ軟禁状態の北京に2年ほど駐在しました。その後2021年2月にこちらに赴任して来ました。赴任が決まった時はコロナ禍でスイス生活がどうなるかと心配でしたが、赴任後すぐに規制も緩和され、去年6月には妻もスイスに来て、一緒に生活できるようになりました。

●スイス生活は如何ですか？

スイスに来て最初に思ったのは、皆さんと同じく日本（中国も）よりも物価が高いということです。（もやしが1袋300円もする！）ただ、チューリッヒでは英語が通じる場面が多いので、言葉の面では、特に中国に比べて楽ですね。（ちなみに北京では中国語以外は通じません。）

自宅はチューリッヒ市の隣のZollikon市にあり、妻と犬のレオンと暮らしています。レオン（3歳、9kg越えのトイプードル＝「デカプー」）は日本から連れてきましたが、こちらに来て驚いたのは、食品スーパー以外はほとんどの飲食店やデパートなどに犬を連れて入れることや、犬にも交通機関の定期券があることです。噂には聞いていましたが、犬税（180フラン/年）を別にすれば、ペットが一緒でも、とても生活しやすい国だと思います。



週末は天気良ければ、妻とレオンと一緒に電車やバス、さらには船に乗って、山や湖などに行き散歩を楽しんでいます。多くの犬がリードなしで遊んでおり、レオンも活き活きと自由に走り回っています。日本に比べると犬にとってスイスは、まさに『犬の楽園』だと思います。

また犬を連れてると、いろいろな人から声をかけてもらえます。中でも妻が犬の散歩中に出会ったご婦人（イタリアの方）

に車でチューリッヒ湖やシュヴィーツ湖の周りを案内していただいたのが、スイスに来て最初の小旅行となり、良い思い出になりました。日本でもそうですが、犬を通じた現地の方とのちょっとしたコミュニケーションを夫婦で楽しんでいきます。



去年の夏はアメリカの高校に通っている息子がスイスに来て、レオンとチューリッヒ湖で泳いだり、家族でインターラーケンでの1泊旅行をしたりして、私としては北京の赴任以来、ようやく3年ぶりに家族全員で過ごせたのが良い思い出になりました。

●ご出身はどんな所？

東京都練馬区出身で、社会人になるまで住んでいました。先日亡くなられた漫画家の松本零士氏やルパン三世のモンキーパンチ氏が住んでいた大泉学園という町の出身です。駅のそばに東映大泉撮影所があり、「がんばれロボコン」や、「Gメン75」や「ねらわれた学園」（原田知世さん主演）の現地ロケが行われた町です。（50歳以上の方しかわからないと思いますが・・・）

今まで住んだのは東京都練馬区、小平市、小金井市、茨城県ひたちなか市、ドイツのデュッセルドルフ、板橋区、杉並区、中国北京市、そしてチューリッヒです。どこが一番のお気に入りかといわれると、どの国、どの街も一長一短があり、答えはありませんが、「郷に入っては郷に従え」のことわざの通り、こだわりすぎなければどの街も「住めば都」になると感じています。

●会員の方へのメッセージ

日本人会の皆様には夫婦ともどもとてもお世話になっていきます。チューリッヒ日本商工会のメンバーにもなっていますので、直接会員の方にお会いすることもあると思います。その際は「KETTE読んだよ」などお声をかけていただけると嬉しく思います。今後ともよろしく願いいたします。

編集後記

キリスト教ではカーニバルの後に始まる四旬節は節制の精神で自らを振り返る時期だそうです。そんな最中のクレディ・スイス破綻には、スイス航空破綻時に次ぐくらい驚きました。一部の社債が無価値になるって、そんな事、やっぱりあるのですね・・・。「節制の精神で自らを振り返る」必要があるのかもしれませんが、どうも腑に落ちません。

そして「花の力」は元気をくれますが、「花粉の力」は目が痒くてくしゃみ過ぎ、元気を奪われる日もあります。

日本人選手3人が活躍するグラスホッパー・クラブ・チューリッヒも荒波に揉まれています。瀬古歩夢選手は日本代表に選ばれ、3月24日に国立競技場で行われたキリンチャレンジ杯のウルグアイ戦で先発デビューを飾りました。

皆様が今月も小さな幸せを見つけられますように！（SN）

広告掲載のご案内

チューリッヒ日本人会 Japan Club Zurichでは、会員の方からのお知らせ・広告の掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料（一部無料）で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

伝言板コーナーをご利用ください

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前（会員に限る）を入れた原稿を毎月10日までに編集部にてメールにてお送りください。

●JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

JCZ会報誌エーデルワイス 2023年4月号

発行責任者：青砥 玄(会長)
編集：中東生 阿部 牧子
ポツツイー二直美

●編集部専用メールアドレス●
edelweiss@japanswiss.ch

チューリッヒ日本人会
JCZ Japan Club Zurich
Office of Honorary Consul
General of Japan
Utoquai 55, 8008 Zürich
www.japanswiss.ch
jcz@japanswiss.ch

